

2022. 9. 21

< 配信枚数2枚 >

報道関係者 各位

2022 年度 国際言語文化研究所 連続講座

「人間と人間でないものの相互作用」開催

日 時 : 2022 年 10 月 7 日・14 日・21 日・28 日 (毎週金曜日) 17:00~19:00

開催方法 : オンライン

立命館大学国際言語文化研究所(※)は、全 4 回の連続講座「人間と人間でないものの相互作用」をオンラインで開催いたします。

今私たちは、世界的な感染症や気候変動、そして軍事的脅威に怯えています。その引き金になっているのは、人間中心主義や権力者による帝国の物語の解釈です。人類が協力して向き合うべき課題ではありますが、一方では差別や分断が露呈し、他方では自己正当化に利用される公的な歴史の物語によって、異なる声が封殺されるさまが目撃されています。

今年度の連続講座では、歴史、政治・社会、思想、文学のさまざまな事例における人間と人間でないものとの関係の考察を通して、その手がかりを得ることをねらいとしています。

※国際言語文化研究所について

新しい時代にふさわしい共同性を思考するという命題を、言語と文化という側面から追求していくことを目的としています。国民国家の再検討、グローバリゼーション批判、ジェンダー編成の考察、ディアスポラとしての移民の追跡、日本研究における視覚性の問題、あらたな社会構造における矛盾など、多くの課題をプロジェクト研究として取り上げ、シンポジウム、出版物などで国際的に展開・発信しています。

記

日 時 : 2022 年 10 月 7 日(金)・14 日(金)・21 日(金)・28 日(金) 17:00~19:00

開催方法 : オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容 : 別紙をご覧ください。

参加費 : 無料・事前予約制

申込方法 : ※講演 4 日~2 日前から下記リンクより事前予約いただけます。

<https://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/event/redirect.html/>

主 催 : 立命館大学国際言語文化研究所

そ の 他 : 手話通訳のご用意があります。

※詳細は別紙および研究所 HP(<https://www.ritsumei.ac.jp/research/iilcs/>)をご覧ください。

以上

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学国際言語文化研究所 担当: 乾・木下

TEL.075-465-8164

【第1回】10月7日「台湾の「妖怪」と「幽霊」—文学と歴史、アイデンティティをめぐる—」

近年、台湾においては、ヴァナキュラーな信仰と結びついた「鬼(幽霊)」や「妖怪」の伝承がさまざまな形で表象されている。本講座では、それらが「言えない秘密」として官製の歴史を相対化する存在であったことを踏まえ、アイデンティティの問題とも関わりながら、どのように文芸作品に反映されているのかを考える。

コーディネーター・司会:三須 祐介(立命館大学)

発表1:「台湾現代文学における『鬼』の形象—陳思宏『鬼地方』を手がかりに」 三須 祐介

発表2:「台湾現代文学における『魔神仔(モシナ)』の形象—怪奇譚が生み出すナショナル・アイデンティティ」 倉本 知明(文藻外語大学)

コメンテーター:菊地 暁(京都大学)

【第2回】10月14日「歴史と小説のポストヒューマニティ」

人間の営みを語る歴史と小説において「脱人間中心主義／人間後」の世界はどのように想像されるのか。進歩・成長のはての瓦礫を思い描く哲学もたらす活路とは。小説家・中上健次(1946-1992)と批評家・ヴァルター・ベンヤミン(1892-1940)の思想に見えるポストヒューマニティを照らし合わせることで、人間後を描く人間の想像力の射程を探る。

コーディネーター・司会:吉田 恭子(立命館大学)

発表1:「中上健次のポストヒューマン思想」 渡邊 英理(大阪大学)

発表2:「歴史のポストヒューマニティ〜ベンヤミンの思想から」 竹峰 義和(東京大学)

コメンテーター:崎山 政毅(立命館大学)

【第3回】10月21日「人間と人間でないもののヴァナキュラーな世界観と物語」

ラテンアメリカには、生者、死者、動物、植物、神々の間に交感・交流・相互作用があると信じる世界観がある。その口承文化の伝統を素材に、メキシコとキューバの作家が編み上げた物語を読み解く。そしてマヤ文学・文化人類学研究者のコメンテーターと共に、ヴァナキュラー文学研究の可能性を模索する。

コーディネーター・司会:安保 寛尚(立命館大学)

発表1:「メキシコの農村:フアン・ルルフォの『死者が／を語る』技法」 仁平 ふくみ(京都産業大学)

発表2:「キューバの密林:リディア・カブレラと神話／民話、驚異的現実の交差点」 安保 寛尚

コメンテーター:吉田 栄人(東北大学)

【第4回】10月28日「人と病—スティグマ／ヘイト・ジェンダー・医療への注目から」

病やそれに対処しようとする多様な営みは、ときに人びとを分断し、ときに差別の可視化や対抗的コミュニティの形成に寄与する。本セッションでは、スティグマやヘイト、ジェンダー、医療や公衆衛生等への注目を通じて、人と病との関係を再検討する。

コーディネーター:小川 真和子(立命館大学)

発表1:「男性と病—エイズウイルスのもたらした男性差別(ミサンドリー)」 水島 新太郎(立命館大学)

発表2:「敗戦史のなかの検疫—女性への嫌悪と警戒を読み解く」 山本 めゆ(立命館大学)

コメンテーター・司会:薩摩 真介(立命館大学)